

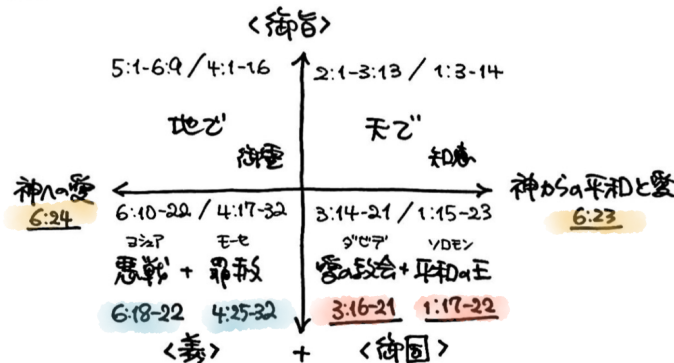


エペソ人への手紙 1-6章 エペソ人への手紙の祈り

予想：手紙の中α祈りは、その手紙の全体概略になっている。

エペソ

2016.3.24



・ 4:25-32 互いに真実を語る (4:17-24 モーセ、出エジプト)

・ 6:18-22 互いに祈りあう、知らせあう (6:10-17 ヨハナ、エペソ人)
(祈り=神に知らせることに)

手紙の中の祈りがその手紙全体の概略になっているのではないかという予想です。

エペソ人への手紙を分析しました。エペソ人への手紙は2016年2月13日のを見てください。

前半と後半が同じ4分割の形であらわされてるだろうということです。上の2つ(2:1-3:13/1:3-14)(5:1-6:9/4:1-16)が御心、下の2つ(3:14-21/1:15-23)(6:10-22/4:17-32)が御国という概略だよねということがありましたので、それを見てください。

祈り自体は最後の6章23節、24節のところ。それと、1章17節から22節、3章16節から21節。という4つのところにあります。

この2つ(右下)。1(章)と3(章)のときの祈りは「平和の王、ソロモン」「愛の教会、ダビデ」とまとめました。平和の君が来ます。その平和の君は、愛の一致を与えてくださるという、御国が来ますということを求めている祈りだということだと分析しました。1から3までの前半は、最後の祈りの半分、神からの平和と愛、後半(4,6章)は神への愛というように分かれていますということで見えてきました。

神からの平和と愛ということは、こちらの祈りで言っているところですけど、神への愛の本来の段落は、形としては、4章と6章にも祈りが無いといけなところなのですが、こちら(4,6章)は、御国を求める祈りではなくて、義を行いましょうという互いに励まし合う神様からの愛について応答することと、神への愛というものは、お互いに愛し

合うということが応答ですので、お互いにこうしようということは、祈りに並行していることとして相応しいということです。

特にこの2つ(4章と6章)で言われているところは、どちらも口の話ですが、4:25からのほうは、互いに真実を語る。偽りを捨てて、隣人に対して真実を語る。盗みをしない、正しい何々…ということなのですが、悪い言葉を出さない。役立つ言葉を話す。恵みを与える。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしり、これもお互いの口にいちばん現れるところです。それで、互いに赦し合う。互いに真実を語り合うということが、4章で言われています。

6章のほうは、御霊によってどんな時にも祈りなさい、祈りなさい、祈ってください、祈ってください、知ってくださいと言っていますので、こちら(6:18-22)は、互いに祈り合う。そして、お互いにやっていることを知ってもらう、知らせ合うということ。祈るということは、神様に知っていただくということですから、お互いに知り合うということ、お互いに祈り合うということの大切な部分になっています。

ですから、この2つのところは、お互いに何をしているのか、愛の会話をしているということになりますので、こっち(右下1章と3章)は祈り、こっち(左下4章と6章)はお互いの祈りというように見ると、祈りが手紙全体の構造をあらわしている、概略になっているということは言えるものだと思います。

こちら(右下,1章と3章)は、御国。こちら(左下,4章と6章)は義。御心が天で、地で行われるように。御国が来ますように、義が行われますように。こちらは、ソロモン・平和の君と、愛の教会・ダビデ、忠実なダビデということです。

後半のほうは、4章の罪を赦しあうというところの前半は、古い人を捨てて、新しい人を着る。6章のほうは、武具を身につける、着るということでした。4章のほうは、古いところエジプトから連れ出されたモーセ。6章からは、強くあれ、雄々しくあれという言い方がありますよね。「大能の力によって強められなさい」と。ヨシュアの言葉のようですね。カナンの地に入っていく、約束の地に入っていくということと、連れ出されたというモーセの愛の教えを忠実にやっているヨシュアという愛の戦いをしているということですので、ソロモン、ダビデ、モーセ、ヨシュアとここに書いてあります。

エペソ人への手紙全体は、愛について教えていますが、神様が愛してくれたことに対して、民が愛で応答する。神様が与えてくださいと祈ることと互いに祈り合うことが愛の手紙の概略になっているということです。